

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000580), 法人名 (あんしんケアホーム和光株式会社), 事業所名 (グループホームあんしんケアホーム和光 1ユニット(ライラック)), 所在地 (047-0002小樽市潮見台2丁目3番4号), 自己評価作成日 (平成25年8月8日), 評価結果市町村受理日 (平成25年11月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の笑顔、能力、共同生活を支援するため体操教室、絵手紙、ヨガ教室を取り入れている(各ユニット共通)
入居者様の残存能力を活かせる様に洗濯物たたみなどできる事を行なっている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2012\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0172000580-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年9月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あんしんケアホーム和光は、「共に支えあう」精神を理念に掲げ、地域の一員として着実に根付き、利用者が終の棲家として安心して暮らせる基盤を築き上げている。建物は、ユニバーサルデザインで広々とし、全ての共用空間が車椅子対応になっている。2階建ての3ユニットで、1階デイルームでは地域ボランティアによる多彩な催しが開催され、大浴場も完備しており、利用者の潤いある暮らしを支援している。更に、事業所内でも楽しく過ごせる様にヨガ体操、絵手紙教室、書道教室などを定期的に開催し喜ばれている。運営者は、ケアサービスの充実を図る為に、職員の配置を厚くすると共に、資質向上にも努めている。夜間も人員を増加した事で、防災対策への強化に繋げている。看取りケアも、既に経験を重ね、家族の信頼を深めている。9月の施設長交代を機に、開設10周年を迎えるに当たり、事業所の更なるサービスの質の確保と向上に向け、「変革」のスローガンを掲げ、全職員で共有し意識改革に取り組んでいる。記録の様式改正から人員配置まで、利用者や家族との信頼の絆を深める為のチームワーク作りに現在奮闘している。施設長の下、職員は何でも話し易い関係が築かれている。職員は、利用者と共に過ごし支えあう関係性を築きながら、豊かな暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年4回の全体会議、月始めの申し送りには声を出し復唱している。また理念の記入されたカードを携帯している。	地域密着型サービスの意義を踏まえ「共に暮らし、共に楽しみ、共に生きる喜び、共に支えあう」を管理者と職員が共に作り上げている。会議や月始めの申し送りでは復唱し、常に理念カードを携帯する事で、職員は意識付けをし、方向性を見極めながらケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の集まりや老人会に参加し交流を深めている。和光祭への参加の呼びかけやボランティアの催しで交流を深めている。	町内会や老人会に加入し、認知症の理解を促す説明会開催や、町内会の祭では子供神輿が立ち寄るなど交流を深めている。事業所主催の和光祭にも多くの地域住民の参加を頂き、ボランティアの催しでは、踊りや琴、合唱などの公演も一緒に楽しみ、双方向の連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や和光だよりを通じて認知症の理解や支援の方法を啓蒙している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域代表をメンバーとし、2ヶ月毎に開催し、運営やサービス、行事の内容などを報告し意見交換している。	運営推進会議は、地域包括職員、町内会役員、民生委員、家族の参加を得て定期的に開催し、運営やサービスの現状、活動内容などの具体的な報告を通して、参加者の理解を深めている。前回の期待項目となっていた、全家族への議事録の配布は実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者及び管理者は行政の窓口を訪問したり電話や来訪の機会に、情報交換や、報告、相談を行っている	運営者及び施設長は、提出書類を直接担当窓口を持参したり、電話や来訪の機会を捉えて、相談や報告、情報交換を行うなど、良好な協力関係を築き、サービスの質の確保に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修で身体拘束の内容を学び理解している。日中は玄関、ユニットの入り口は施錠せず、入居者様に応じたケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、各ユニットでいつでも閲覧出来る様に整備している。今年度は外部研修に8名の職員が参加しており、内部研修にて情報の共有を図り、拘束をしないケアの徹底に努めている。日常にて不適切なケアを目撃した際には、施設長が適切な指導を行っている。玄関やユニット入口は、日中は施錠せずに自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で虐待の防止について学び、理解し虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員を権利擁護に関する研修に参加させ、その内容を全体会議等で他の職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する契約等の説明は管理者が行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となって入居者や家族の要望を聞きホームの運営に反映させるよう勤めている	利用者とは日々の会話や表情から、希望や要望を汲み取っている。家族とは、来訪時や電話連絡の際に、意見、要望を引き出せる様に、雰囲気作りに努めている。来訪時の家族の要望は連絡帳に記載し、職員間で情報を共有している。年4回の季刊誌でも暮らしぶりを報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談を通して職員の意見を聞きホームの運営に反映させている	全体会議やユニット会議、リーダー会議にて、職員の意見や提案を取り上げ、働き甲斐のある職場環境を目指している。職員の要望から、日報のフォーマットを作成し直した結果、記録し易く、見易く改善されている。運営者との個人面談も実施され、職員の要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス給与表作成し各々の実績等を反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の職員の経験等を考慮して研修に参加させ、また資格の取得については休暇等で支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽グループホーム連絡協議会が行なう相互訪問研修に職員を参加させ他の施設を知る機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、ご本人、ご家族と面談してその中で困っている事や要望などを聞き取りその上でご本人が望む形でホームでの生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の施設見学や管理者との話し合いをおして安心して入居してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いをし病院やケアプランセンター等の情報を参考にして「その時」必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の能力やできる事を把握しそれぞれ出来る範囲で日常生活の中での作業と一緒にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との関係性を大事にし本人と家族の関係を理解し家族からの協力を得ながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への手紙や電話また面会できるよう支援している。友人や知人来客がある時は、積極的に受け入れている。	友人、知人の来客時に、大勢の場合は1階のデイルームを提供したり、要望があれば食事も用意するなど、居心地良い時間を過ごせる様に、配慮している。行き付けの美容室や馴染みの場所には、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し好みの人と関われるように職員が中に入り利用者同士が会話できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の求めに応じて契約が終了して助言や相談支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が利用者の希望や意向の把握に努め、職員全員で共有し日々の関わりに活かしている。	日々の関わりの中で状況を観察し、利用者一人ひとりの表情や仕草から思いや意向の把握に努め、その人らしく暮らせる様に取り組んでいる。情報は職員間で共有し、ケアサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報、家族からの情報、本人との会話により情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、水分摂取記録、健康管理表などを通して、職員間で報告し常に利用者の心身状態などの把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い利用者本人、家族、医療関係者と話し合い、介護計画を作成している。心身に大きな変化が見られた場合は、その都度介護計画を作成している。	介護計画は、毎月のユニット会議にて利用者の状況を確認し、利用者、家族の意向を基に作成している。医療関係者の所見を踏まえて、モニタリングを3ヶ月毎に行い、全職員で検討し作成している。状態変化に応じた見直しも随時行われている。	介護計画は、モニタリングやカンファレンスで表出した課題やニーズを具体的な目標として作成されているので、日々のケアサービスは、その目標項目に沿ったサービスである事が望まれる。介護計画を活かす為にも、作成担当者を中心に、全職員で更に検討する事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の心身状態と職員の対応、経過、結果を毎日個別に記録し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて、支援やサービスの多機能化取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望により趣味や習い事など継続できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に沿った、かかりつけ医の受診を行っている。通院には職員が介助支援に努めている。週1度、歯科医の往診も受けられる。看護職員が日々の健康管理を行う事で、安心感が得られ、適切な医療を受ける支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に少しでも変化があった場合、看護師に報告、相談し、必要に応じて掛かりつけ医を受診している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院に普段の生活の様子などを文章で知らせている。また入院中は管理者が定期的に様子を見に行き、治療の経過等の情報を把握している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合の対応について、施設と家族の間で文章を交わしており合意を摂っているまた状態が変わった場合はその都度家族と話し合い意向を確認している	重度化や終末期に向けた対応指針を整備し、利用者本人、家族に説明を行い、同意を得ている。既に、5名の看取りを経験しており、主治医、看護師、介護職員、家族と連携し、支援に取り組んでいる。職員間でターミナルケアの充実を図り、チームケアの体制が整備されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで講義を受けている他緊急対応マニュアルを整備し、その通りに実施に参加した施設でも避難訓練を行なっている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署主催の避難訓練と施設内での火災予防訓練を行い運営推進会議を通して地域と支援ネットワークの体制作りを行なっている	年1度ホーム内で実施される避難訓練は、地域住民の参加を得て昼想定で行われ、更に消防署主催の避難訓練にも職員は参加している。夜間ケア加算により、人員配備も強化している。スプリンクラー、自動通報装置を設置し、備蓄品も整備している。	夜間想定訓練に加え、あらゆる災害時(地震・風水害)を想定した避難訓練の実施を期待すると共に、避難訓練を重ねる毎に課題や疑問が抽出されるので、年間を通じた自主訓練の検討も期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシー保護や人格の尊重について常に職員同士で確認し合い適切な対応に努めている	名前は「さん」付けを基本に、利用者の人格を尊重した声かけや話しかけを行い、誇りやプライバシーを傷付けていないか、職員間で注意を払っている。個人の記録は、事務所に安全に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴えに耳を傾け出来るだけにそうように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人一人の希望を把握し、それぞれのペースに合った暮らしが出来るよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の能力に合わせてその人が気に入っている洋服やおしゃれ出来るように支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の食べる力に合わせ必要に応じて刻みミキサー食提供、テーブル拭きやオシボリたみ、野菜の下処理を手伝ってもらっている	献立は食材納入社の栄養士が作成し、レンジも配布されている。希望により、刻みやミキサー食も取り入れ、彩りや盛り付けにも配慮し、美味しく楽しい食事になる様に工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、栄養バランスの良い食事を提供している。一人一人の水分量を把握し、それぞれの状態に合った支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時に声掛けや介助など一人一人に合った対応をし口腔内を清潔に保てるようにしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯、尿量、水分摂取を把握し声がけをしたり、トイレの訴えあり介助し排泄の失敗を減らすようにしている	一人ひとりの排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮しながら、さりげなくトイレ誘導を行っている。衛生用品が必要な場合も、利用者の状態に合った種類を検討し、取り組みを重ねている。夜間も極力オムツに頼らずにポータブルトイレを使用し、自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をこまめに摂ってもらったりバランスの良い食事を提供、散歩に出かけたり軽い体操をし適度に運動できる時間を設けている			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場で週2回入浴を行なっている。その他に本人の希望や体調により個室での対応もしている	1階に大浴場があり、週2回を目途に、利用者はゆったりと寛いだ入浴を楽しんでいる。気分や身体状況により個室浴の希望があれば、各フロアのユニットバスで対応している。拒む利用者には、決して無理強いないせいで、声かけ等を工夫し、衛生保持に努め、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて30分程ベットで横になって休息をしたりしてもらっている。ご本人が使い慣れた寝具で寝てもらおうようにしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に日付を記入し服薬前に職員数人が誤薬の無いよう確認する。ケースファイルに服薬している薬の目的、副作用などファイリングしたり職員一人一人が服薬表を作り種類、目的等を把握している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせて出来る範囲で洗濯物をたたんだり、おしぼりを巻いたりしてもらっている。他には本人の趣味の手芸などが出来るよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調を考慮し気分転換などを計るため野外レクや個別の散歩を実施している	利用者の体調や天候により、散歩や買い物を楽しんでいる。裏庭の畑作業や日向ぼっこで外気浴にも努めている。周辺は坂道なので、車でのドライブが多く、全ユニット合同で水族館に出かける行事がある。施設長は外気に触れる重要性を理解しており、家族の協力を得ながら、個別対応など工夫を凝らした外出支援の検討を示している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で所持している。おおむね職員が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によって手紙の投函、代筆、電話の取次ぎをしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スロープのある広い大浴場がある。季節に合った飾りや馴染みの音楽をかけている。トイレは車イス対応の設備で居心地の良い空間を工夫している	ユニバーサルデザイン設計の建物は、広々として、全ての共用空間は車椅子対応となっている。リビングには食卓テーブルとソファがゆったりと配置され、キッチンもオープンキッチンなので、職員と利用者が会話しながら、食事の準備が出来、見守りにも適している。リビングには利用者の作品も飾られ、季節感、生活感を醸し出し、落ち着いて過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内のソファは自由に利用でき、入居者様同士、テレビを観たり新聞を読んだりくつろぐことが出来るようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車イスでも十分な広さがあり、使い慣れた家具や好みの飾りで安心できる空間を利用している	ゆったりと広い居室には、洗面台や手すり、ナースコールを設置し、安全と利便性に配慮している。利用者は、使い慣れた家具やテレビ、仏壇、生活必需品などを持ち込んでいる。家族写真や絵、手作り作品を飾り、利用者の個性を引き出しながら、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり配置、床はバリアフリーになっている。トイレは車イスの入居者様と一緒に介助する職員も入れる広さがある		